

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成26年11月12日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0890100027		
法人名	医療法人社団 愛優会		
事業所名	グループホーム 水戸	ユニット名	1F
所在地	〒310-0852 茨城県水戸市笠原町1614-9		
自己評価作成日	平成26年4月22日	評価結果 市町村受理日	平成26年11月10日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kihon=rue&JigyosyoCd=0890100027-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成26年6月11日	評価機関 決 済 日	平成26年10月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

四季を感じ、五感を刺激しながらのウォーキング、毎朝施設の庭での体操、日光浴、エアロバイク、ステップ運動を毎日実施し、『歩かないと 歩けなくなる』をモットーに、一日の歩数8000歩を目標としている。また週3回県庁のジムを利用し、四肢の筋力低下を防ぎ、元気に生き生きとした生活ができるように支援していく。竹内教授の「水、メシ、クソ、運動」を実践し、認知症が改善していくように支援しています。入居者様同士が他愛もない会話をし笑いが絶えない明るい家庭のようなグループホームを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

看護師である施設長が中心となって利用者の健康維持を目的に、生野菜と豆乳のジュースを毎日提供したり、事業所周辺を職員とウォーキングをしたりしている。
入居当時は車いすだった利用者も足腰が丈夫になり、外出が楽しみになっている。
今まで多重に服用していた薬の種類を最小限に抑えるなど、きめ細かな健康管理の甲斐があり、家族から驚かれるほど元気を取り戻している利用者もいる。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念、地域密着型サービスを踏まえ、スタッフ同士で考えた施設理念を共有し、実践できるように努力している。	「笑顔のある生活、手と手で和ができ、歩いて広がる地域の輪」を理念に掲げ、玄関や各ユニットの事務室に掲示するとともに、朝礼や会議の際に全職員で確認し、実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、回覧板を回し挨拶をかわしたり、清掃順番も参加していた。夏祭りのイベントなどにお誘いし、地域の方と交流している。	事業所は町内会に加入し、利用者と職員で回覧板を回したり、ごみ収集所の清掃を行ったりするなど、日頃から地域の一員として交流している。 夏祭りの際には地域住民に案内状を配布して参加を呼びかけたが、雨天のため家族等のみの参加となった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム便りとし、グループホーム水戸通信におばあちゃんの知恵袋として、認知症や健康等の、まめ知識を載せ見て頂くようにしている。施設にはAEDを設置し、職員全員が講習を受け緊急時に使用できるようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に6回ホーム内で開催し、施設の雰囲気や入居者様の表情を直接見て理解して頂く。市の職員や御家族、ご近所の方や入居者様に参加をお願いしている。	事業所は運営推進会議の開催日を奇数月の第4木曜日と決め、利用者の代表や家族等の代表、市職員、民生委員、管理者や職員で開催している。 会議では県庁にあるトレーニング室で、手足の筋力アップのトレーニングを行っていることを報告したり、委員からの「雨の日はどう過ごしているのか？」との質問に、「室内でステップ運動をしている」と回答をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月の市役所への入居状況報告や他調査等の報告は、市役所へ訪問し担当職員と交流するように心掛けています。又、地域運営推進会議への参加をお願いし、施設の現状を理解して頂くようにしています。	管理者は月1回市の介護保険課や地域包括支援センターを訪問し、運営上で困っている点や介護保険の不明な点について相談や報告をしている。 生活保護の利用者については、生活福祉課を訪問して利用者の暮らしぶりを伝えたり、事業所への来訪時には生活状態を確認してもらうなど、互いに協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束の廃止、拘束の内容を玄関に掲示。また、身体拘束についての勉強会を実施し、職員全員が正しく理解し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	日中は玄関を施錠せずに夜間のみ施錠し、利用者の自由な暮らしを実践している。 玄関に身体拘束の対象となる具体的な内容を掲示するとともに、身体拘束廃止に向けたマニュアルを作成し、管理者と全職員で年に1回研修を実施して確認している。 身体拘束をしないケアのリスクについて説明し、契約時に家族等から書面で同意を得ているが、やむを得ず身体拘束を行う場合の経過観察記録や再検討記録を整備するまでには至っていない。	利用者の身体拘束が必要になった場合に備え、経過観察記録や再検討記録を整備することを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、参加した職員による伝達講習を実施し、また職員間での虐待防止についての話し合いをして、虐待についての理解を深め防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度については、まだ勉強不足の部分が多く、活用できるには至っていない。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、契約書、重要事項説明書等を説明し、同意のもと締結している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常生活の中から、入居者様の要望や情報を得、ご家族様からは面会時や、地域運営推進会議でご家族のご意見等を伺うよう心掛けている。市の職員や地域の方と共に傾聴し、議事録を作成し、施設玄関にいつでも閲覧できるようファイルに綴っている。	管理者や職員は日常的に利用者からの要望等を聞き、できる限り希望にそって支援をするとともに、家族等からは年に1回事業所の運営についてアンケートを実施し、運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、定期的に施設内会議を開催し、本部からの情報伝達や、職員の意見・要望を聞き、理事長他、本部部長へは本部会議の際に伝達している。	管理者は毎月実施する職員会議で職員から意見や要望、提案等を聞いているほか、日頃から職員の意見を聞ける体制づくりをしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が勤務しやすい状況が保てるよう、個々の状況を把握しシフト作成し、無理なく勤務が継続できるよう配慮している。また、研修や休日の希望を取り入れると共に、シフトに偏りがないようにしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアパスを導入し、経験のみでなく能力や向上心も踏まえ、フロアリーダーと管理者、本部の教育担等者が評価している。キャリア段位により、資格取得や研修等参加を積極的に進めている。施設内で定期的に勉強会を開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	法人内の他事業所との研修会の参加や、協議会主催の研修等に参加し情報交換している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に入居予定の入居者様や御家族にお話を伺い、本人が困っている事、不安な事、要望等の相談にのり対応することで入居後の不安が軽減するように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族の要望や不安な事に耳を傾け、信頼関係が徐々に築けるように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご相談に応じた上でその状況を見極め、他のサービス利用も含めた幅広い対応をするように努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族のように親身に関わり、常に身近でより良い関係を築けるように努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月職員が直筆で交代制で手紙を書き、その入居者様の思いや毎日の生活、施設で参加したイベント等を記述。家族や職員で本人をともに支えていく関係を築けるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人の面会や手紙、外出への支援を積極的に行っている。	利用者が昔住んでいた場所へドライブに行ったり、馴染みの美容院に付き添うほか、利用者の友人が来訪した際にはゆっくり話ができるよう居室に案内するなど、できる限り利用者のこれまでの馴染みの場所や人との関係が継続できるよう支援に努めている。 来訪が少ない家族等へは、月に1回の面会をお願いしているほか、利用者の日常の暮らしの写真や近況を知らせる手紙、小遣い帳の写しなどを請求書と一緒に毎月家族等に送付している。 毎年7月に利用者と家族等との交流会を開催している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士がコミュニケーションが図れるように職員が間に入り支援している。また、入居者様同士のトラブルがないように職員が心がけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後（死亡退去も含め）ご家族へお手紙を送付したり、自宅訪問等し支援するよう努めている。施設へ来訪や電話等にも対応している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の要望や普段の会話などから本人がどのように思っているか、理解、把握するように努めている。	職員は日頃から、利用者との関わりの中で希望や思いを聞くほか、ゆったりと個室で話を聞くなど、意向の把握に努めている。 思いや意向を言い出すことが困難な利用者に対しては、家族等から話を聞いたり、表情やしぐさなどから判断をして職員で話し合い、意向の把握に努めるとともに、申し送りノートや情報共有シートに記載して全職員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の会話やご家族、サマリーからの情報から本人がどのような暮らしを行ってきたのかを把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の表情や言動、心身の状態を観察し、変わった事があれば申し送りノートに記載、職員間で情報の共有をし現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	フロア会議や全体会議で話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	家族等からは来訪時や電話で意見や希望を聞き、管理者や各ユニットの職員で話し合い、利用者の状態を勘案して計画作成担当者が介護計画を作成している。 毎月モニタリングを実施し、長期計画は6ヶ月毎、短期計画は3ヶ月毎に見直すとともに、利用者の心身の状態に変化が生じた場合は現状に即した介護計画に見直している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の他、情報共有シート、申し送りノートも活用し職員間で情報を共有しながら会議で話し合い実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現状に応じて、個別的に本人に対しての支援や家族も含めた、柔軟な支援等対応できるように心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ウォーキングの際は、茨城県開発ビル、ショッピングセンター、また週3回のジムは県庁の福利厚生棟などの地域の資源なども利用し、入居者様に喜んでいただけるような配慮も行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、入所時にご希望を伺って決定している。状況に応じ、途中から協力医療機関への変更も行っている。入居前のかかりつけ医への受診は主に家族対応、協力医療機関への受診は職員が付き添ったり往診で対応している。	利用開始時に希望する医療機関を開き、職員も同行する場合があるが、家族等が付き添う場合は介護記録を持参してもらい、結果を家族等から聞くとともに、個人記録簿に記載している。 協力医療機関を受診の際には職員が付き添ったり、協力歯科医による訪問診療を支援している。 急な変化があった場合は家族等へは電話で報告したり、変化がない場合には手紙で報告している。 生活保護の利用者の受診結果は、市の担当者に電話で報告をしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の検温や身体状態の変化は主に介護職員が観察し、職場の看護師と連携し病院へ報告。指示を仰ぎ入居者様が適切な受診や看護を受けられるように支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した際、安心して入院生活が送れるよう適宜に訪問し安心して治療できるように支援している。病院職員とも情報交換し、早期に退院受け入れ出来るようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りの指針について説明し同意を得、終末期が予測される状況となった場合、協力医と共に経過説明と看取りの場の選択について、本人にとって望ましいか再確認し、終末期に向けて連携体制を整えるようにしている。	重度化や終末期のあり方については、契約時に利用者や家族等に「看取りケアについての同意書」の方針を説明して同意を得ている。 看護師である管理者が、訪問看護を利用して家族等の協力を得ながら、吸痰なども問題なく実施しており、今までに3例の看取りを経験している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内にAEDを設置し、毎年研修を受け、急変時や事故発生時の対応、応急手当ができるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回全体消防訓練を実施し、昼夜を問わず入居者が避難できる方法を全職員が身につけている。災害時に備え備蓄品も確保し、災害伝言ダイヤルも体験日に利用し災害時に備えている。	年2回避難訓練を実施し、避難訓練後に反省と課題を記録し、次回の訓練に活かしている。 品名や数量、賞味期限等を記載した備蓄品リストを作成して管理するとともに、飲料水や缶詰等を3日分備蓄している。 悪天候のため、避難訓練に近隣住民の参加を得ることが困難であったほか、避難に要した時間を記載するまでに至っていない。	避難訓練に近隣住民の参加が得られるように運営推進会議で話し合うほか、避難に要した時間を記載することを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の人格を常に尊重し、誇りやプライバシーを保てるように配慮するようにしている。	全職員は利用者に対して人格を尊重して細やかに対応をしており、周囲の人に聞こえないようトイレへ誘導をしている。利用者から話を聞く時には居室で聞くように配慮しているほか、入室の際は必ず利用者に断ってから入るようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が色々な思いや希望などを表現しやすいような環境づくりを心がけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決められた日課を優先せずに、可能な範囲で入居者様の希望をとりいれ、施設内での生活だけでなく季節ごとのイベントでの外出や外食等出来るよう支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様のご希望があった際は理美容室の利用をしたり、好みの衣類を職員と一緒に買いに行ったりし、その人がその人らしいおしゃれができるように支援している。			

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人が希望された場合は配膳、下膳、お茶だしなどのできることを行って頂き、役割を持っていただくことで食事がより楽しむことができるように支援している。	利用者の嗜好を把握し、苦手な食材を提供しないように配慮するとともに、誕生日には利用者の好みの食事を取り入れている。 職員は利用者と同じテーブルで食事を摂り、食べこぼしや嚥下に注意し、食事を楽しめるよう楽しい雰囲気づくりをしている。 利用者は自発的に食器を台所のカウンターに運んだり、片付けをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスがとれた献立付き食材配送使用している。摂取量等で栄養が不足がちな方は、医師と相談し栄養補助食品も摂取している。水分は毎日1500mlを摂取できるように管理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。また、歯科衛生士による口腔ケアも行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入居者様一人ひとりの排泄パターンを把握し、排泄の失敗がないように努めている。	利用者の排泄チェック表を基に水分摂取量を管理している。 夜だけおむつとパッドの利用者は9人、昼夜ともおむつの利用者が7人、1人でトイレに行ける利用者が10人おり、職員は時間を見計りながら声かけをしてトイレへ誘導している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤に頼らず、毎朝プルーン、生野菜ジュースを提供している。また、水分摂取や運動などの自然な方法で排便コントロールをできるように取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴をより楽しむことができるように、数種類の入浴剤を使用したり、浴室に絵や風景写真を提示し温泉気分を味わって頂けるようにしている。	週2回の入浴を基本とし、利用者が入浴を拒否した場合は翌日に入浴支援をしている。 ウォーキングの後はシャワーを浴びている。 5月の菖蒲湯や12月の柚子湯など、季節を感じ取れるよう入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中お昼寝の時間を設けている。また、その時々状況に応じて休息したり、日光浴や日中運動することで安心して気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方時の医師から説明の他、薬局薬剤師とも連携を取っている。調剤時の薬剤情報を各自の記録ファイルに挟み、作用副作用を把握しながら服薬支援できるよう努めている。また、服薬時名前や日付などを確認し誤薬の予防に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人や御家族の話聞き、本人の楽しみや嗜好を理解し、張り合いや喜びのある生活ができるように支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の生活意中で、誕生日に希望されている所で外食したり、希望の場へ行ったりと可能な範囲で支援するよう心がけ、面会の際は外出の希望があれば、面会者と一緒に外出できるように支援している。	<p>天気の良い日はほとんどの利用者が職員と一緒にウォーキングを楽しみ、健康維持に努めている。</p> <p>県庁や開発公社で休憩し、本屋やコーヒーショップに立ち寄るなど、日によってコースを変えながら、ほぼ毎日外出している。</p> <p>季節毎に観梅や苺狩りなど、事業所が作成したイベントの企画に基づいて実施している。</p>	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時やイベント時に、自分で財布を持ち、本人の希望されている物を購入して頂く機会を設けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様からのご要望があれば、ご家族や友人と電話、手紙にて交流をはかっている。また、ご家族に対しては、職員が毎月近況報告の手紙を送っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節毎に応じた飾りつけや、お花を飾る事で季節感を味わって頂いている。また、上記の事を設置したフロアで入居者様同士が会話をする事で、居心地良い環境になるように工夫している。	<p>玄関に観葉植物を配置して家庭的な雰囲気を出すとともに、食堂には利用者が季節を感じられるように配慮して紫陽花を飾っている。</p> <p>壁に利用者の習字や利用者が写っている行事の写真を掲示したり、1階と2階の広い窓からは野菜畑や花畑が見えるなど、四季を感じられることができ、利用者が寛げる環境となっている。</p>	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルで新聞を読んだり、テレビを見たり、ソファに座り談話されたり、一人ひとりの居場所が造れるような配置にしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使用していたご本人の馴染みの物を居室に配置、ご家族様との写真を飾る事で、心地よく過ごせるように配慮している。	居室にはベッドやクローゼット、エアコン、照明器具、火災感知器、カーテンが備え付けられている。 利用者は家族等と相談しながら仏壇や家族の写真、本箱、椅子、整理筆筒、衣装ケース、時計、本などを自由に持ち込んだり、自宅で使い慣れた物品や思い出の物品を活かし、居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人のできることは可能な限り自分で行って頂き、安全かつ自立した生活ができるよう一人ひとりの力を伸ばしていけるように努めている。 『歩かないと歩けなくなる』『自分でしないと出来なくなる』をモットーにしている。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	1, ほぼ全ての利用者の ○ 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	1, 毎日ある ○ 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ全ての家族と ○ 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように ○ 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている ○ 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	1, ほぼ全ての職員が ○ 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が ○ 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム水戸

作成日 平成26年11月7日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	33	災害対策とし、年に2回避難訓練を実施しているが、近隣住民の参加が得られていない。避難時間も把握し、協力が得られるようにする。	災害時、近隣の方の協力が得られる様、避難訓練にも参加して頂く。	・地域運営推進会議で話合う他、近隣の方へ参加依頼の文書等配布して回る。 ・避難に要する時間は避難訓練時に測定。	7か月
2	6	身体拘束が必要になった際の経過記録・再検記録をの整備が必要。	身体拘束時に必要な書類が整う。	・身体拘束時に関する書類の見直し。 ・身体拘束時の経過・再検討記録の作成。	達成済み
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。